

春 告 草

第 54 号 平成 29 年 3 月 24 日 進路指導部発行

今の立ち位置を確かめて、未来へ挑戦しよう

2 期生が卒業していった。彼等の入学は平成 23 年。三鷹高校と三鷹中等が同居している中でのスタートだった。当時、高校生は高 1 から高 3 まで 3 学年そろっていたのに対して、中等生は 1 年 2 年の 2 学年しかいない状況。クラス数も高校 16 に対して、中等は 8 クラス。行事などでは高校生の圧倒的なパワーに圧倒された場面もあっただろうが、2 期生の諸君はありったけのエネルギーでぶつかっていった。もっとも印象的だったのは合唱祭だ。実に熱心に練習に取り組み、この学年が後期課程に進級してきたら上級学年はうかうかしていられないと、三鷹高校最後の学年を担当していた私は思ったものだ。

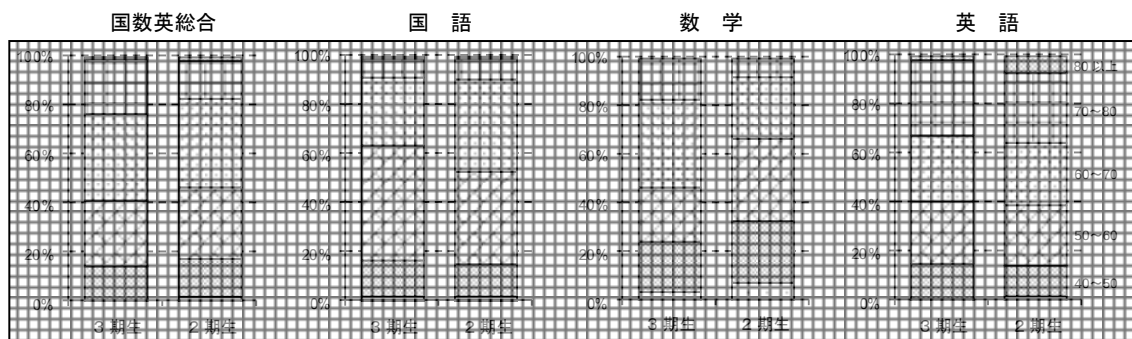
そして三鷹での 6 年間の修学を終え、それぞれの未来へ向けて巣立っていった。卒業式、生徒会長の送辞には胸打たれるものがあった。先輩へ向けての感謝の気持ちが込められた暖かなメッセージに、思わず涙した列席者もいた。卒業式の学校長の言葉「若き先駆者たちよ」には、前途ある 2 期生の一人一人が、自分の未来を自分の力で切り拓いていくことへの期待が込められていた。

2 期生は進学実績でも大きく躍進した。先輩たちの実績を見て、勇気づけられる人も多いことだろう。5 年生対象に行った「受験報告会」では輝ける栄光の陰には、弛まぬ努力があったことも知ったことだろう。来年、再来年、輝ける栄光をつかむのは 5 年生、4 年生の皆さんだ。目標を高く掲げ、勇気をもって、力いっぱい挑戦して欲しい。

模試の結果を振り返ろう

5 年生が行った 2 月マーク模試の結果と 2 期生が同時期に行った結果を比較した。2 期生は後期課程進級時に行ったスタディサポートの学力分析で英語学力が高いレベルにあり、大学受験では大きなアドバンテージになると直感した。予想通りの合格実績を残してくれたが、5 年生も良い状態をキープしていると言えるだろう。欲を言えば、全国偏差値 80 以上のトップ層が厚くなること。これに対して、数学は明らかに成績上位層が増えている。全国偏差値 60 以上が半数を超えているのは心強い。文系志望で数学が強いのは大きな力となるはずだ。課題はといえば国語学力だろう。全国偏差値 60 以上の割合が 2 期生に比べて薄くなっている状況がある。全国偏差値 50 台後半の層の更なる頑張りを期待したい。現代文、古文、漢文のどこをどう伸ばすのかを考えてみよう。ただし、3 教科総合でみれば、上位層が厚くなっている状況なので、今後の飛躍に期待している。頑張ろう。以上は、学年全体の学力状況であるが、一人一人についてみれば、また違った評価も生まれるだろう。

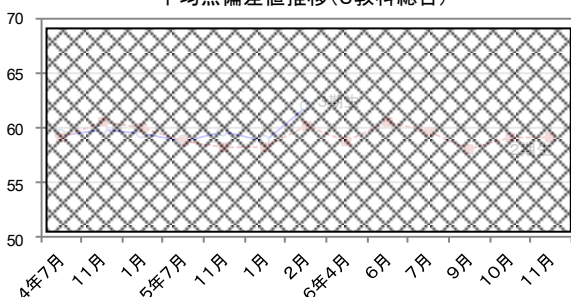
5 年生 2 月マーク模試度数分布比較



最後に4年7月からの模試3教科総合成績の平均点偏差値推移を右に載せた。5年11月模試で2期生の推移を上回り、以後その状態を維持している。

大学受験まで295日、既に300日を切っている。1日1日を大切にして、各自の課題克服に向けて努力する姿勢を貫こう。

平均点偏差値推移(3教科総合)



ナカダルミに御用心！

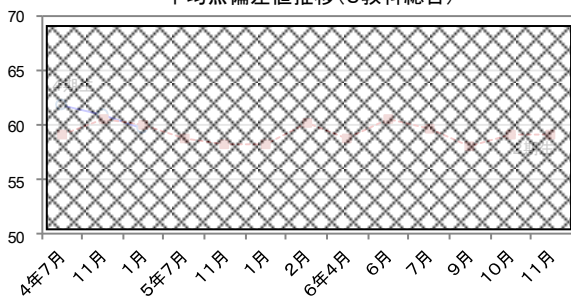
次に4年生の1月記述模試の結果について検討してみよう。

都立高校生の成績推移でありがちなパターンは、高校2年で成績が大きくダウンする傾向。これは高校受験で高められた学力が1年間で「底をつき」、高2から成績が下降線をたどるというもの。ダウンの原因は勿論勉強不足だ。4年生の成績推移をみるとまさしくナカダルミ、いや「中だるみ」の兆候が出現しているとみて良いのではないだろうか。下のグラフは模試3教科総合の平均点偏差値推移である。4年7月実施の記述模試で4期生はこれまでの最高レベルでスタートしたが、回を重ねるごとに全体の学力レベルは下降の一途である。科目ごとのグラフは省略したが、国語、数学も同様の傾向である。英語は現状維持であるが、2期生の上昇傾向とは対照的な状況である。



謎の転校生ナカダルミ登場
彼女の魔力にかかれば、
成績ダウンは必至！
聞わりをもたないように！

平均点偏差値推移(3教科総合)



下の棒グラフは昨年実施した3回の模試成績の学力分布を棒グラフで時系列に表示したものである。時間の経過とともに上位層が減っている状況が確認できる。

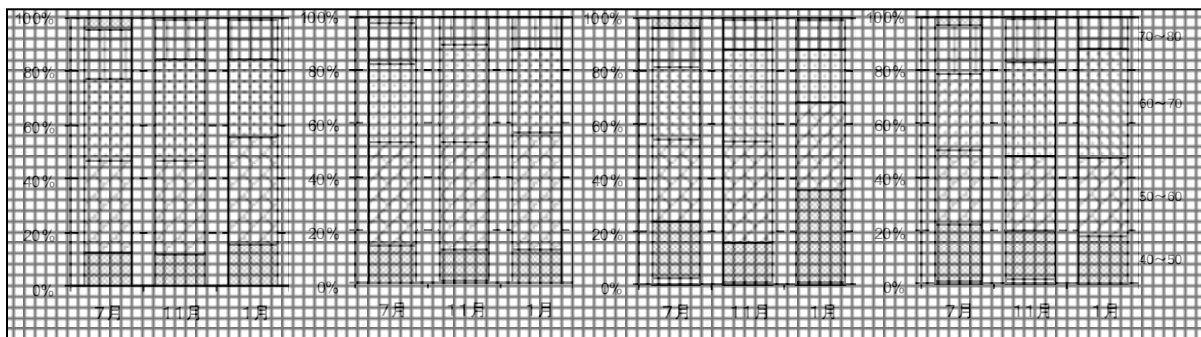
4年生 模試成績度数分布推移

国数英総合

国語

数学

英語



4年生の皆さん、三鷹中等での学校生活は折り返しを過ぎ、残り2年となった。フルマラソン42.195キロに例えれば、もうすぐ30キロ地点、エネルギーが切れてくる頃だ。残りを走り切る為には、今後のエネルギー補充は欠かせない。更に、見事自分の目標へゴールするには、これからのプラン作成も必要になってくる。とにかく目標を見据えて頑張ってみよう。

以上、学年ごとに学力推移を考察したが、何よりも進路目標に対して、現在の学力的な立ち位置がどこなのかを、まずは一人一人がしっかりと認識することが大切である。もちろん漠然と頑張るでは、課題は解消されない。4月から3期生もいよいよ最終学年、4期生も5年になる。進路目標をはっきりと捉えて、少しずつでも良いから近づけるよう取り組んでいこう。

2期生の受験を振り返って

3月に卒業生を送り出した2期生担任の先生方に受験指導を振り返って頂きました
これから受験を迎える3期生、4期生には、とても参考になるアドバイス満載です
今後に活かしてください

2期生の受験が終わりました。2期生から後輩のみなさんに伝えたいことは、今後の進路指針や在卒懇、部活動などの場で彼ら自身の口で語られると思いますので、ここでは担任団から見た2期生の受験への取り組みの様子などをお伝えして、あとに続く3期生以降のみなさんの参考にしていただければと思います。

チーム三鷹で乗り切った大学受験

2期生の入試への取り組み方の印象からまず言えることは「受験は団体戦」ということです。以前から定期考査などのたびに放課後の教室で教え合う姿がよく見られる学年でした。6年になると校内模試の回数がぐんと増えますが、毎回終わったすぐ後に解答・解説を何人かでああでもない、こうでもないときき合う姿が見られました。いよいよ受験が始まり、その結果が続々と出てくる時期にも「予備校へはもう行きたくないけれど学校なら来ることができる」という生徒も多くいました。「自分の合格はまだでも、友達の合格は素直に喜べる、喜びはわかちあえる」という雰囲気がありました。受験は長く苦しいプロセスです。そんな時、苦しみや不安、喜びを心から分かち合える仲間がいるということはとても大切なことです。チーム三鷹の一員として一人ひとりがよく頑張った大学受験でした。

基礎が大切！

よく言われることですが、やはり基礎力をつけること。学校では教材、副教材として、3年間の高校課程の学習やその先の受験を見据えて、数多くの優れた教材が用意されています。まずそれを十分に使いこなしましょう。センター試験は日々の授業内容から出題されます。「本当に教科書から出た」とはセンター試験後の多くの受験生の声です。今年は東京農工大に多くの合格者が出ましたが、彼らはまずサクシードやチャートなどの副教材を使い、ガッチリ基礎固めをしていました。その基礎力があってこそ、問題演習が活きてきます。理系生徒については計算力も大切です。早く、正確な計算力が、問題をじっくり考える余裕を生みます。2期生は英語を得意とする人の多い学年でしたが、力のある人ほど単語テストなど、学校での小テストには地味に、真剣に取り組んでいました。外語大や早稲田に合格したAさん、Bさんの語彙集などは赤線や付箋がいっぱいでした。東大に合格したC君は授業中の単語小テストですら手を抜かず、いつも確実に満点をとっていました。英語の入試問題は読解問題が大半を占めますが、「読むための」語彙力、文法力といった基礎を固めることがまず始めに必要となります。国語に関しては「焦るな」の一言に尽きます。問題演習や過去問に本格的に取り組むのは2学期以降で十分間に合います。難解な現代文を正確に読むためには本当の読解力が必要。それは日々の授業で養成されます。焦らず授業の予習をきちんと行い、授業には真剣に取り組む、そして必ず復習をする。このルーティンをこなすことが肝心です。教科に関係なく、授業時間を大切に、集中して授業に取り組んでいた人たちは力をつけて良い結果に結びつけることができました。一日の時間の大半を過ごす学校です。授業の時間を最大限に活用しましょう。

自分の頭で考えること

あたりまえのことですが、「自分で考えて」勉強することです。数学は解答パターンの暗記に走りがちですが、それだけでなく「なぜそのような解き方になるのか」を常に自分で考えながら取り組むことでより高いゴールを目指せるようになります。理科についても、焦らず土台をしっかりと固めてから過去問演習を始めましょう。自分の課題を見つけては問題集に戻り、不安がなくなるまで問題を解き、さらに記述問題などで総合的な力をつけていった生徒、入試本番から逆算し今の自分に何が必要かを考え計画的に勉強していた生徒が成果をあげました。英語では、読解問題に取り組んだ後に、言われなくてもすすんで100字要約を書いて「見てください」と持ってきた生徒がいました。自分の力を見極め、必要な勉強を自分で考え取り組むということこそ高校生の勉強であり、よい成果につながる鍵です。また過去問については志望校のみに絞らず、同レベルの学校を中心に他大学の過去問にも広く取り組んでいた生徒は、関連知識や応用力をつけることができたと言っていました。

最後まであきらめない強い心

6年ぶりの受験ですが、弱気は禁物です。早稲田に合格したDさんは「試験会場では周りがみんなできる人に見えて萎縮してしまい、そのまま受けた学部はだめだった。それじゃいけないと思い、あきらめずに最後まで頑張った学部は合格した」と言っていました。高校受験を経験していない三鷹中等の生徒にとって、全国区の大学受験で心身ともに不安定になる人が多かったのでしょうか。保健室やカウンセラーの先生にもどれだけお世話になったことか。少しでもそんな不安を軽減するために薦めることは、校内だけでなく「外部模試」を積極的に受けに行くことです。そして自分の志望する大学は複数学部受けること。複数受けると後半のほうでは慣れてよい結果が出た人もいました。滑り止め、実力相応校、チャレンジ校とレンジを広くとって受験することも大切です。「受かっても行かない大学だから受けない」のではなく、「合格」の実績は強い自信につながります。自分を認めてくれた大学があるということが心の安定につながった生徒も多かったです。第一志望受験前に合格している大学があることで、落ち着いて受験できることにつながります。

志望は高く！

最後に「志望校の決め方」ですが、希望はぜひ高くもってください。理科大、明治、法政など多数私立に合格したE君は「国公立を第一志望にしたから私立も合格できた」と大学受験を振り返っていました。また、私立へ行くからセンター試験はいらないのではないかと考えている人もセンター試験は受けるべきです。万が一、3月まで結果が出なくてとても苦しい時、あらたに受験しに行く元気も出ない時、センター試験の結果を送るだけでⅡ期、Ⅲ期と出願できる学校がMARCHクラスにもあるのです。模擬ではない本番のセンター試験は、それに続く私大入試、国公立大入試に向けて、度胸をつけるのにも絶好の機会です。又、今年度からお茶の水女子大学で新フンボルト入試が始まりました。これはセミナーを受け(高2から受講できます)、その上で出願しますが、文系か理系かで悩んだ末、文系の図書館入試で出願したFさんは「セミナーも試験も楽しかった」とのこと。受験生が集まったのディスカッションや面接でもしっかり自分をアピールすることができ、見事合格することができました。志望校・学部を迷っている皆さん、「楽しい」と思える入試問題に出会ったら、それは自分に合っている大学、学部です。迷ったら赤本の入試問題の英文などをちょっと読んでみてください。「おもしろいな」と少しでも感じたら、そこが自分に合う学校です。

□2期生大学合格状況□

北海道大	1
筑波大	3
金沢大	1
お茶の水女子大	2
東京大	2
一橋大	2
東京外国語大	4
東京学芸大	3
東京農工大	10
電気通信大	3
横浜国立大	1
大阪大	1
奈良女子大	1
首都大学東京	4
フランス 州立コンセルバトワール	1
国公立大計	39

早稲田大	33
慶應義塾大	8
上智大	14
東京理科大	15
早慶上理計	70

青山学院大	10
中央大	20
法政大	27
明治大	33
立教大	14
学習院大	7
GMARCH計	111

私立大は延人数
現役合格数で既卒合格数は含まない
(平成29年3月22日現在)

2期生から3期生へ受験のバトンパス

大学受験報告会で先輩から後輩へアドバイス

3月22日(水)に、大学受験を終えたばかりの卒業生8名を講師として迎え、来年度に受験を控えた5年生全員に向けて、今年度の受験報告会が行われました。

講師の卒業生たちは、いずれも地道な努力を積み重ね、最後までねばり強く試験に挑み、素晴らしい成果を出しました。受験に立ち向かう中での悩み苦しみを含め、最後まで夢を諦めずに努力することの大切さや、日頃の勉強へのアドバイスなども、熱意をもって具体的に語ってくれました。

受験という大変、辛い、孤独…というイメージを抱きますが、勉強を楽しむ、自分の可能性を広げる為の努力という前向きな印象を持ちました。先輩たちの温かく実感のこもったお話を聞いて、3期生の皆さんは大いに刺激を受け、受験へ向かう覚悟を新たにしたいと思います。

